



2026年1月30日

各 位

会社名 株式会社ツバキ・ナカシマ
代表者名 取締役 代表執行役 CEO 松山 達
(コード番号 6464 東証プライム)
問合せ先 IRディレクター 原 あす香
(TEL 06-6224-0193)

減損損失の計上、棚卸資産評価損の計上、繰延税金資産の取り崩し、 繰延税金負債の計上及び2025年12月期通期連結業績予想の修正に関する お知らせ

当社は、2025年12月期（2025年1月1日～2025年12月31日）決算において、減損損失の計上、棚卸資産評価損の計上及び繰延税金資産の取り崩し、繰延税金負債の計上を行うとともに、2025年2月17日に公表いたしました2025年12月期通期連結業績予想値を修正致しますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上

国際会計基準（IFRS）に基づく減損テストを行った結果、昨年来の欧州の事業環境の厳しさに加えて、セラミック事業の競合環境の変化に伴い、過去に計上したのれんの将来回収可能性を見直し、約167億円の減損損失（うち一部、欧州事業およびセラミック事業の固定資産で将来的に稼ぐキャッシュを見直した約18億円の減損損失を含む）を計上する見込みとなりました。

引続き欧州事業は、当社が事業展開する主要地域であることに変わりはなく、事業環境の変化に合わせた積極的な構造改革・戦略転換を図ってまいります。また、セラミック事業は、電気自動車（EV）市場において想定したスピードでの市場拡張が起こらず、競争環境も厳しい状況ですが、同事業は引続き当社における成長分野と位置づけており、新製品の投入や新規市場開拓により巻き返しを狙ってまいります。

2. 棚卸資産評価損の計上

中期経営計画の土台要素である「SIOP*プロセスの確立」を目指していく中で、構造改革の一環として行ってきた全社における在庫精査と管理体制の見直しを通じて、主に米国における2つの工場とセラミック事業の競争環境の変化を契機として、保有している在庫のうち、販売可能性が無く廃棄が見込まれる在庫を中心に、約64億円の棚卸資産評価損を計上する見込みとなりました。

*SIOP=Sales, Inventory, and Operation plan の略

3. 繰延税金資産の取り崩し

米国子会社において計上してきた繰延税金資産について、事業環境の変化を契機とした事業計画の見直しに伴い、繰延税金資産を取崩し、法人所得税費用約29億円を計上する見込みです。

4. 繰延税金負債の計上

事業環境及びグループ内資金需要の変化を契機とした子会社からの配当政策の見直しにより、繰延税金負債約15億円を計上し、同額の法人所得税費用を計上する見込みです。

5. 業績予想の修正

(1) 2025年12月期通期連結業績予想数値の修正（2025年1月1日～2025年12月31日）

	売上収益 百万円	営業利益 百万円	税引前利益 百万円	親会社の所有者 に帰属する 当期利益 百万円	基本的1株当たり 当期利益 円 銭
前回発表予想(A)	71,500	1,000	△600	△800	△20.10
今回修正予想(B)	69,800	△22,200	△23,900	△28,400	△733.43
増減額(B-A)	△1,700	△23,200	△23,300	△27,600	△713.33
増減率(%)	△2.4%	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (2024年12月期)	75,921	814	1,747	912	22.91

(注) 2024年12月期第1四半期連結会計期間より、ボールねじ及びボールウェイの製造及び販売事業を非継続事業に分類したことに伴い、売上収益、営業利益、税引前利益の実績を、非継続事業を除いた継続事業の実績で表示しております。

(2) 修正の理由

2025年12月期の通期連結業績につきましては、1～4に記載しました要因により、前回予想を大きく下回る見込みです。なお、連結決算のとりまとめ及び監査法人の最終確認を踏まえて数値が変動する可能性があることから、概算値で開示しております。

2025年12月期決算は2026年2月13日に開示予定です。

以上